

図書館だより

10月号 丹原高校図書委員会

○10月27日～11月9日は読書週間です！！



(今回の図書館だよりを担当した2-4)
図書委員2人のおすすめ本

読書の秋ですね。10月27日からは読書週間が始まります。皆さんは読書週間の歴史をご存知ですか？

終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。



2020大賞
読書週間ポスター

*ちなみに、一般募集で採用されると、賞金10万円！

2020読書週間標語
「ラストページまで駆け抜けて」

図書館利用状況 (クラス別貸出冊数)
2020. 10. 23. 現在

	1組	2組	3組	4組
1年	33	24	46	10
2年	3	1	6	9
3年	0	8	11	16

ある一定の方がよく図書館を利用していただいております。食後に、10分間静かに読書とかいかがですか？
もっと、図書館においでくださいませ♡

『錆食いビスコ』 瘤久保慎司

すべてを錆びつかせ、人類を死の脅威に陥れる「錆び風」の中を駆け抜ける、疾風無頼の「キノコ守り」赤星ビスコ。彼は、師匠を救うための霊薬キノコ『錆食い』を求め、旅をしていて美貌の少年医師・猫柳ミロを相棒にして、過酷な道中で次々に迫る脅威をミロの知恵の閃きと、ビスコ必中のキノコ矢が貫く！愛する人を救うため、強弓が撃ち抜く冒険ファンタジー！

この本は師匠と世界を救うために冒険をしているビスコと錆び風の発生地が解き明かされる！面白いのでぜひ読んでみてください。



『星の王子さま』 サン・テグジュペリ

砂漠に不時着した飛行士が、宇宙のどこかの星からやってきた小さな王子さまと出会います。年を重ねてもどこか大人になり切れない部分を残した飛行士は王子さまと過ごすうちに生きる上での大事なことを思い出します。しかし、二人にも別れがやってきて……。フランスの作家であり飛行士でもあったサン・テグジュペリによって書かれた『星の王子さま』。子供向けに書かれた童話ですが、大人だからこそ響く生き方のエッセンスが詰まっている作品です。本中には数々の名言が出てきます。自分の気に入った言葉をぜひ見つけてみてください。